

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

ジュニアチューターを通じて

木下典子*

われわれDグループは「免疫抑制者に対する抗菌薬予防投与 必要・不要？」というテーマの下、取り組みました。かなり難しい壮大なテーマで臨んでしまい、参加者は大変だったと思います。

Dグループは、研修医から10年目の小児科医といた幅のあるメンバー構成でしたが、皆で役割を意識しながらグループワークに取り組んでくれました。実際に普段の診療で遭遇する機会が少ないから、調べることがメインの作業になりました。いただいた賞も「資料が充実していたで賞」でした。ただこれは本当に大切なことで、今回私が参加者たちに伝えたかったことです。

現在、小児感染症専門家集団のなかでトレーニングを受けさせていただいている身として強く大事に思うこと、それは「一症例一症例大切に調べつくす」ことです。症例が複雑になればなるほど、

経験したことの無い症例であればあるほど、感染症の原則に戻り、成書に戻り、何がわかっている、何がわかっていないのか、ガイドライン・既知の報告にはどう書かれていて、それらはどのレベルのエビデンスなのか深く考え、目の前の患者に適応します。診断・治療・マネジメントに悩んだときはその繰り返しです。そしてそれが予後につながります。論文という形にしていくことの大変さをともに感じ、やりがい、大切さを皆で学べたと思います。

参加者らから、「その後も考える・調べる癖がついた」「発信していくことの重要性を感じた」という声をいただきました。私自身にとっても、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

* * *

* 国立成育医療研究センター感染症科